

③ 〈 学校外部評価(専門家) 〉

評価委員会開催日 2024年4月10日(水)、11日(木)

参考資料 ①内部評価調査結果 ②出席率一覧 ③年度末テスト結果一覧表
④最終進路先一覧表

評価委員 大阪樟蔭女子大学 特任I号准教授 松本理美
国際エンゼル協会 職員 小川入江

学校に対する質問や提言と学校の考え

◎ 内部評価について

- Q. 学生アンケートの質問項目が少ないのでは? 何を測りたいのかがわかりにくい。
A. 学内でも検討課題として挙がっており、次回調査時には項目を増やす予定である。またそれぞれの設問を精査し、学内環境改善につなげていく。

◎ 出席率について

- Q. 学生の出席率が下がる理由は? また、その対応や対策は?
A. 個別には多様であるが、進路が確定した学生の一部は学習意欲が下がり安易な理由で遅刻欠席を繰り返す傾向が見られた。月毎に段階的に繰り返し声かけ面談を行い、出席を促している。また、出席率の高低にかかわらず卒業まで毎日学校で学習することが楽しいと感じる環境づくりを心がけている。

◎ 成績表について

- Q. 会話・作文テストの評価が総合評価になっているが、内訳はないのか?
A. 評価時点ではそれぞれ複数項目で評価しているが、今後の検討課題としたい。
- Q. 読解で、あるクラス(8クラス)だけとても悪いがなぜか。
A. 再履修が多いクラスで、漢字・長い文章を読むこと自体に苦手意識を持っている学生が多いクラス。授業カリキュラムなど再考・検討していく。

◎ 学習内容・進路について

- Q. 学生の進路は大学・専門学校・就職とあるが、同じカリキュラムでやっているのか。
A. 中級までは総合的な日本語力をつけることを重視しており、同じ内容で授業を行っているが、進路に合わせたカリキュラムは必要性を感じており、現在検討中の課題である。

◎ 学校運営・体制などについて

Q. 常勤・非常勤は何名ぐらい？

A. 23年度は常勤6名非常勤11名だった。24年度は増員を行い、常勤8名非常勤19名になった。

Q. 常勤を新卒でとっているか？

A. 現在の常勤はすべて経験者からの採用だった。持続的な学校運営の観点からも新卒者の採用が必須と考えるが、受け入れ体制が整っていないのが現状。検討していく。

Q. 認定養成機関について、実践のほうで登録を考えているとのことだが、費用については？日本語教師を目指す大学生には金銭的に厳しい面もある。

A. 現在申請準備中であり、詳細は決まっていないが、市場の相場を参考にしながら比較的安価で提供できるようにしたい。(ただ、現在想定している受講生は退職者や主婦など、経済的に余裕がある層)

Q. 教育実習生の受け入れや交流会など、大変有意義であったと感じる。今後の取組みについて。

A. 教育実習生の受け入れは、教職員学生ともに大きな学びを得られる機会と考えており、教育実習先として選んでいただけることに感謝している。交流会も学生の語学学習にとどまらない世界観を広げる大切な行事であり、今後も精力的に増やしていきたい。

◎ 社会貢献について

Q. 地域との交流やボランティアなどの活動はあるのか。

A. あるが十分とは言えない。ボランティアなどの社会貢献や地域との交流や活動などは語学学習とともに重要な取り組みと考える。その活動を通して学生は地域・社会を知り、社会や地域からその一員として認められるのではないか。そのためにも今後も地域の団体や各方面の関係団体と協力・連携しながら多様な取り組みを実施していく予定である。